

沖縄キリスト教短期大学報

第37号

沖縄キリスト教短期大学
 沖縄県 西原町字翁長777
 電 話 (098) 946-1240
 FAX (098) 946-1241
 発行 学長 原 喜美
 編集 事務局企画課



主な内容

△卒業生を送ることば 原 喜美
 △放送大学との単位互換
 協定締結について 前里 光盛
 △最終特別講義「キリスト教と
 平和教育」(要旨) 金城 重明
 △宗教部活動報告
 △感動的な「若南風」公演 原 喜美
 △卒業生答辞(要旨) 與崎 利香

△国際交流「ハワイ研修」について 原 喜美
 △名誉教授金城重明先生に対する
 感謝のことば 大城 実
 △公開講座第二期(1992~1993年度)を
 省みる 漢那 憲治
 △公演を終えて 新垣 典子
 △同窓会ニュース



卒業生を送ることば

学長 原 喜 美

親愛なる新卒業生の皆さま！
とうとう皆さんがこの西原のキャンパスを去られる日が来しました。胸が熱くなる想いを抑えて、晴れの門出を心からお慶び申し上げます。本日この卒業式に御出席の来賓の皆さま、ご両親さま、同窓生、教職員の皆さまと共に三三五名の方々の晴れの卒業を寿ぎ度く存じます。

卒業される皆さんは、今、「ギリ短にきて自分の望む勉強ができて本当によかった」と思って下されば幸いです。しかし、皆さんはともあれ、私達は、皆さんのような、心優しい、素晴らしい方々と、人生の最も大切な二年間を、西原の丘の上で共に学び、共に喜びや悲しみを分かち合ってきた出来、最高でした。ギリ短には他のキャンパスでは余り経験できないほどのぼのとした友情に溢れた雰囲気があったと思います。それは、相手を思いやる気持ちのあらわれであって、出会った時のさわやかな挨拶、眼と眼がふれ合った時、何とも表現できない喜びに満ちたほほえみです。これは本学の大切な友愛の財産として永久に継承していき度いもので

す。

二年間といっても日数に直せば七三〇日間、沖縄では晴れた日も、台風の吹き荒ぶ日もありました。それと同様一人ひとりの生活も決して平坦なものではなく、愛するご家族との死別、離別のあった方も、健康を害したり、パブルのはじけた経済界の余波を受けてご家庭まで経済的な苦境に追いこまれた方も居られたでしょう。とにかく人生は苦難の連続が普通でありますので、それらを乗り越えて今日の佳き日を迎えられたことは、神の御佑けに外なりません。

また、昔と違ってギリ短には、多様な文化的民族的背景、多様な年齢、そして多様な持った方々が集まっています。特に視覚や歩行に困難を感じながらそれを見事に克服されて、今日の栄冠を獲得された方々も数名居られます。私はいつもその方々に出会う度に、神様が皆にその方のお隣りに立っていらっしゃるのを感じます。神との出会いということは、そのように、特別なたまものを神から受けている方を通して達成で

きと確く信じています。その方々のお陰で私たちは少しずつ寛容になり、友情あふれるボランティア活動も、自然にできるようになりました。

御承知のように、ギリ短では、本年度から、コミュニケーション・サービスクラスという科目を、一般教育の一環として、カリキュラムに組みこみました。卒業生の中にもその科目を履修された方も居られるでしょうが、高齢者に対するサービスクラス・メンタル・フレンド制度、作業所、児童館、学童保育所におけるサービスクラスなど、普通のクラスのプロダクトとは異なり、実際にフィールドワークを通してボランティア精神の体得を目指しています。英語科、保育科の別なく学生の皆さんは熱心に参加され、西原の地域社会の方々と交わり、効果を挙げました。

また、ギリ短の国際性を更に広く高く発揮できるよう、本年度は新たにミシガン州立大学、ハワイコミュニケーション・カレッジにおける、きめ細かい研修を実施して、五十

1994年3月卒業生数

学 科	男	女	計
英 語 科	5	264	269
保 育 科	2	114	116
計	7	378	385

CONGRATULATIONS!

第36回卒業式

1994年3月15日



外国人留学生卒業生

英語科	葉 儀 淵 (台湾)
〃	饒平名 シルビア・ミリアム (フィリピン)
保育科	林 雅 麗 (台湾)
〃	鄭 珣 嬋 (台湾)

1994年3月 卒業生就職及び進学状況

科 別	英語科	保育科	企業名	科 別	英語科	保育科	企業名	科 別	英語科	保育科	企業名	科 別	英語科	保育科	企業名
丸 正 印 刷	1		オフィスシステムプロダクト	1			都 ホ テ ル	1			こ く ら 保 育 園	1			
中 央 出 版	1		沖 縄 銀 行	3	3		ベルソピア・オーシーシー	1			ひかりのこ幼児学園	1			
沖 縄 電 力	2		琉 球 銀 行	7	1		九 建 設 計	1			沖縄県中学校英語教員	5			
日本トランスオーシャン航空	7		第 一 勤 業 銀 行	3			サンマリーナホテル	1			那 覇 市 立 保 育 所	1			
エ ア ニ ッ ポ ン	1		日 本 銀 行	1			NEC公共システム開発本部	1			石 川 市 立 保 育 所	1			
K L M オ ラ ン ダ 航 空	1		沖 縄 海 邦 銀 行	1			杉 の 子 保 育 園	3			宜 野 湾 市 役 所	1			
サービスクリエーション	12		沖 縄 証 券	2	1		深 川 愛 隣 保 育 園	1			沖 縄 県 初 級 一 般 事 務	1			
エ ア ー 沖 縄	2		野 村 證 券	1			あ か な 保 育 所	1			沖 縄 県 初 級 警 察 事 務	1			
全 日 空 商 事	1		国 際 証 券	1			神奈川県社会福祉事業団	1			陸上自衛隊那覇駐屯地	1			
エーエエー・トラベル・オキナワ	3		大 和 証 券	1			諸 聖 徒 保 育 園	2			那 覇 市 立 保 育 所	4			
西 鉄 旅 行	1		三井生命保険ラフイーネ	1			チロリン幼児園	1			久 場 川 児 童 館	1			
住 友 商 事	1		千 代 田 生 命	1			わ か め 保 育 園	1			沖 縄 県 庁	1			
松 下 電 工	1		大 同 火 災	1	1		平 安 学 園	2			(進学)				
沖 電 気 工 業	1		住 友 生 命	1			さ ざ な み 保 育 園	1			沖 縄 国 際 大 学	3	1		
沖 縄 セ ロ ッ ク ス	1		オ ー ク ス	3			さ くら 保 育 園	1			桜 美 林 大 学	3			
ジ ュ ン	1		プ ロ ミ ス	1			西 川 保 育 園	1			沖 縄 福 祉 保 育 専 門 学 校	1			
沖 縄 日 立	1		ハートライフ病院	1			の ぐ さ 保 育 園	1			東 京 神 学 大 学	1			
ノ エ ビ ア	1		ホテル日航アリビラ	2			ふ た ば 保 育 園	2			英 知 大 学	(1)			
住 金 物 産	1		ナイスコーポレーション	1			あ り あ け 保 育 園	1			ライデン大学(オランダ)	(1)			
日産プリンス沖縄販売	1		パレスオンザヒル沖縄	1			し い の み 保 育 園	1			()は、他と同時合格				

二十一世紀まであと数年を残し、今は二十一世紀へ転換する前夜のように変革の時代です。社会からの要望や挑戦が激しければ激しいほど、皆様の潜在能力も一層ひき出され、伸長されることでしょう。これからの生涯学習社会に生きるには、いつでも、どこでも、誰でも、何でも学ぶことが可能です。キリ短で獲得された能力を基礎にして、更に深い理解力、批判力、思考力、問題解決能力、洞察力を磨いて下さい。そして、自己の為

締結について

今年の一月十四日、放送大学の
小尾信彌学長と本学の原喜美学長
は千葉の放送大学において「単位
互換協定書」に調印された。これ
は、昨年三月十九日の本学教授会
の決議をふまえて行われたもので
ある。調印式には、本学より柳澤
教務課長と私が陪席した。

放送大学との単位互換により、
 本学のカリキュラムは、より一層
 豊かにされ、教育内容は充実し、
 学生の多様な学習ニーズに応える
 ことが可能となる。三百余の講義
 科目を共同製作し担当されるのは、
 学問の先端分野で最新の理論や研
 究をふまえて国際的に活躍してお
 られる先生方である。従って、こ
 れらの科目は、学生にとって有益
 であることは勿論のこと、私共教
 員に対しても研究や教育方法の面

皆様の輝かしい旅立ちに、神様の豊かな御恵みを心から祈ります。



学長 原 喜 美

ハワイには七つの秀れたコミュニティ・カレッジがある。実は筆者が本学に赴任する数年前からハワイ・コミュニティ・カレッジの特別なご指導とご厚情を受け、四国の短大と国際交流を行ない、その短大の学生達は素晴らしい異文化を経験学習する機会に恵まれた。その関係で特に全コミュニティ・カレッジの総長、津野田ジョイス博士から、キリ短にもお声がかかり、筆者も是非ということ、本学の賛同を得て、今回第一回の交流を始める運びとなった。今回はカピオラニ、ウインドワード、カワイの三つのコミュニティ・カレッジがキリ短の学生達の為に、豊富

なプログラムを通して、ハワイの素晴らしい文化を経験し理解する機会を用意して下さった。ハワイに着いた途端、余り楽しくて「もう沖縄には帰り度くない。」という程、一行はハワイに魅せられている。いずれ詳しい報告は次号に掲載される予定である。

国際交流は世界平和を達成させる最高の方法である。平和なくして国際交流は不可能であるし、平和を実現させる為には、平和的手段による以外ない。他国の文化に接することにより、初めて「我にかえる」経験をして、自己認識・自己変革をつよく迫られる。キリ短の学生達が、教職員ともども、カルチャー・ショックを経験しながら、ハワイの多くの方々と個人的な交わりを通し、大学、その他の施設での学習、文化センター、美しい自然との出会いを通して、一回りも、二回りも内面的成長を遂げ、三月十三日には、元気に帰国するのを楽しみにして待っている。

で貴重な示唆を与えてくれるに違いない。

今回の「単位互換協定書」では、授業科目の範囲を「現代の人間観と世界観」「児童の福祉」「アメリカ論一〇二」「英語二〇七」等の十七科目に限定している。学生の修得単位は十五単位を越えない範囲で本学の卒業要件の単位として認定される。

放送大学は、現在、南関東以外の地域ではビデオ学習センターを設置して全国のニーズに対応しているが、五年後には、衛星放送を利用して全国どこでも学習できるようにする計画である。そうなること、ここ沖縄でも短大卒業者が三年次に編入して学士の学位を取得することも可能である。

今年四月からの受講を希望して九名の学生が登録申請中である。登録後は「特別聴講生」として本学の図書館内でビデオやテープ、さらに内容の充実した印刷教材を使って学習する予定。試験は琉球大学図書館内にあるビデオ学習センターで受けることになる。

多くの学生の皆さんが、この制度を十分に活用して豊かな教養と

広い職見を養うことを期待する。

() は男子
倍率 (A/B)

學 科 名		応募者数	受験者数A	合格者数B	倍率(A/B)
一般	語 科	333 (5)	322 (5)	233 (4)	1.38
	保 育 科	228 (2)	221 (2)	92 (2)	2.40
	一般入試合計	561 (7)	543 (7)	325 (6)	1.67
	英語特別奨学生	11	11	4	2.75
推 薦	英語A類	207 (2)	204 (2)	91 (1)	2.24
	B類	20 (4)	20 (4)	17 (4)	1.18
	英語科計	238 (6)	235 (6)	112 (5)	2.10
	特別奨学生	6	6	1	6.00
薦 奨	保育A類	143	143	40	3.58
	B類	17	16	13	1.23
	保育科計	166	165	54	3.06
	特別奨学生	17	17	5	3.40
内 計	A類	350 (2)	347 (2)	131 (1)	2.65
	B類	37 (4)	36 (4)	30 (4)	1.20
	推薦入試合計	404 (6)	400 (6)	166 (5)	2.41
合 計		571 (11)	557 (11)	345 (9)	1.61
	保 育 科	394 (2)	386 (2)	146 (2)	2.64
	計	965 (13)	943 (13)	491 (11)	1.92

B類 … 社会人・身体に障害をもつ者・教会推薦・外国人留学生・帰国生

◎第2期公開講座開設一覧(1992~1993年度)

講 座 名	
一九九二年度 カウンセリング入門 カウンセリング上級コース 牧会カウンセリング 情緒障害とカウンセリング 家族カウンセリング 近現代のキリスト教史 現代社会と教育 水墨画と造形Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ アメリカ史概論(英語) 上級英会話 イタリア語講座 中級イタリア語 ギリシャ語初級コース ワープロ講座(初級) 社会人のためのコンピュータ・プログラム入門	
一九九三年度 カウンセリング初級 カウンセリング中級 老人福祉とカウンセリング 老人福祉とカウンセリング(実践) 教会の信仰 教理と敬虔—カルヴァンの思想 女性学 チャンブルー文化の魅力 水墨画と造形 第二次大戦以後のアメリカ外交政策(英語) 初級イタリア語 書く技術入門 俳句入門	

沖縄キリスト教短期大学の公開講座は、首里のキャンパス時代より単発的に開かれてきた経緯を持っています。しかし、正式に学内で組織されたものとして始まったのは、一九九〇年四月からです。一九九二年度と一九九三年度の二カ年で開設した講座数は、三十

公開講座委員会
委員長 漢 那 憲 治

公開講座第二期(一九九二~一九九三年度)を省みる

講座に達し、受講者数は約八百名です。表に示してあるように、キリ短らしさが出ている公開講座です。カウンセリング関連、語学関係、女性論、キリスト教関係、そして芸術関係の講座です。その講座のほとんどは、希望すれば単位認定ができるように配慮されています。この中からいくつかのトピックを紹介します。

受講者の中から、東京神学大学へ編入を認められた方が二人います。一人は二年次へ、もう一人は三年次への編入です。

「俳句入門講座」で作品集を発

行しました。講師の野ざらし延男氏の編集・発行によるもので、一九九三年八月に「受講生俳句作品集」として刊行されました。図書館に一冊寄贈されたので、気軽に閲覧ができます。

「カウンセリング入門」(渡久山朝裕講師、一九九二年度後期)では聴覚障害を持つ受講者を受け入れました。その際、手話通訳者も同席してもらいました。

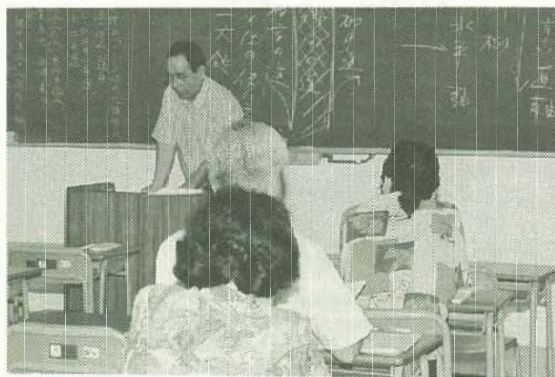
このように、本短大の公開講座は、学ぶ意志を持つ方ならどなたにも開かれています。

◎公開講座開設期間

前期定例講座 4月~7月
夏 期 講 座 8月
後期定例講座 10月~2月

※但し、担当者の都合により多少の変更もあります。

「俳句入門」講座風景



金城重明教授 1994年1月20日 最終講義を終わる



名誉教授 金城重明先生に
対する感謝のことは

教授(前理事長) 大 城 実

先生は、戦火で指導者を失った沖縄のキリスト教会が、『本土』に派遣した第一期留学生である。しかしそこに到るまでには、先生の中で言葉に尽せない葛藤があった。戦争という極限状態にあった

とはいえ愛する者を死に至らす特異な経験、その悪夢のような経験の故の絶望、そしてキリストとの出会い。その出会いの中で見つけた罪の赦しと新しい生命の約束と希望。それらの経験が、その後の先生を生かしてきたし、思想の基盤となっているのだと思う。一九七〇年代以降、先生が精力的に書かれ、各地で行った講演のほとんどは、キリスト教と平和教育をテーマとするものだといっている。

金城氏と本学との関わりは、一九五七年の開設以前の、設立準備の頃に遡る。その後米留留学中の空白はあるものの、文字どおり、本学の歴史を歩んでこられた。学長として一期四年間、本学の財政建て直しに苦勞なされ、また教室外においても、宗教主任(部長)として学生たちの指導、教育に多くの足跡を残しておられる。

本学が新しく発展しようとしているこの時、先生に去られるのは惜しいことだが、今後は、これまでの研究と思想をさらに深め、人類の平和と本学の発展に寄与されるようご期待申し上げたい。

先生の上に、主の祝福を祈る。

最終特別講義

「キリスト教と平和教育」

教授・宗教部長 金 城 重 明

要旨

私が、平和教育により深い関心をもつようになったのは、『家永教科書裁判』の証人の一人として、一九八八年二月の沖縄出張法廷で、沖繩戦・「集団自決」について証言して以後のことである。原告側が、「集団自決」は皇民化教育と皇軍の圧力によるものだと言明したのに対して、国側は、「自発的死」を主張した。

教科書に真実を記述するということは、過去の過った教育と軍隊の非人道的行為を、隠ぺいせずに掲載することによって、繰り返し返されてはならない過去の負の遺産を、平和への教訓として学ばしめるのである。「集団自決」を、自発的死、と意味付けることは、皇民化教育の非を認めないことであり、あの悲劇的死を無にすることになる。歴史教科書の記述内容が憲法論議になっているが、単に表現記述が問題ではなく、平和憲法の前に、

教育・行政・司法の在り方が問われているのが、教科書裁判の本質なのである。

我が国は、平和憲法が、三百万の同胞と二千万人を越えるといわれるアジア諸国の人々の犠牲の上に、樹立された事の意味と重みを、再認識する必要がある。同時に我々は、平和憲法の目指す人類共通の平和理念を、世界の目標・課題として標榜すべきだと思う。

キリストは、愛と正義の故に、十字架上で尊い命を犠牲にされた。キリストの命の犠牲によって、人類に和解(平和)の基礎が据えられた。和解(平和)の福音こそが、教会の宣教の課題なのである。旧約のシャロームは、経済・福祉・宗教・倫理など、人間が生きて生活する凡ゆる領域を視野にいた平和概念であり、現在の平和学に非常に近い。シャロームを深化させたのがキリストの十字架の犠牲による和解である。

キリスト教平和教育とは、キリストの和解による、神と人間・人間と人間・人間と自然との関係を回復しつつ、共に生きる道を求め、実現していく道程に外ならない。

宗教部活動報告

「共に生きる」ことを求めて

今年度宗教部の活動は、「共に生きるために」をテーマに、月曜礼拝の他、次のプログラムが持たれた。

- 一、前期キリスト教週間（六月七日～十一日）
- （ア）月曜礼拝「人々はメシアを欲しがらる」志村真牧師（若松教会）
- （イ）シンポジウム「共に生きる」とは（六月十日）自らも障害を持ちながら、障害者の社会参加を訴えておられる四名（内、本学学生一名）をパネラーに迎えて。
- （ウ）キリスト教講演会「共に生きる」——「I and It and You」（六月十五日）隅谷三喜男氏（東京大学名誉教授）
- （エ）ビデオ上映「愛のゴスペルシンガー、レーナ・マリア・ヨハンソン」（六月十一日）
- 二、サマーバイブルキャンプ（八月十日～十二日）伊江島「土の宿」にて、木村浩子さん（画家、世界障害者芸術協会）の話を聞く。福岡女学院短大学生参加。



サマーバイブルキャンプ 伊江島土の宿
木村浩子さんと共に

- 三、後期キリスト教週間（十二月十三日～十七日）
- （ア）月曜礼拝「愛—それは温かい行動」十二月十三日）福井達雨氏（揚学園総リーダー）と止揚シスターズ（歌）。
- （イ）伝道講演会「あなたは愛されています」アーサー・ホーランド氏（キャンパス・クルセード伝道者）
- 四、クリスマス礼拝・祝会（十二月十八日）
- 五、卒業礼拝（三月十四日）高里勝介氏（沖縄教区議長）
- 六、キリスト教講演会「心の聖座を家庭の中にも」（五月二十四日）町田貞子氏（生活評論家）
- 七、その他、朝の祈りの会、聖書研究会、一泊交流会、アジア勉強会。

昨年度から身体に障害を持つ学生を迎え、学生の間にもよい交わりが生まれてきた。この経験を深め、本当に共に生きるとはどういうことを問い続けるために、年間テーマを「共に生きるために」とした。この問いに対し、キリスト教週間の講師、隅谷三喜男先生は、まことに鋭く適切な指摘をしてくださった。人に生きがいを感じさせるのは、相手を客体化して「それ」ととらえるのではなく、主体と主体の関係「私とあなた」の関係に生きることである。そして、障害を持つ人を見て「問題がある、かわいそうだ、何とかしなければ」と思う次元は、まだ「私とそれ」の関係に過ぎない。本当に共に生きるとは、相手と「私とあなた」の関係の中で出会うこと、そしてただ一緒に楽しむのではなく、共に悩むことである。

国内だけでなく、アジア・世界の人々とも共に生きるための摸索も始まっている。月曜礼拝や、報告会で世界やアジアの貧困の問題を聞いた。また、学生宗教委員の間では、自発的にフィリピンに古着等を送り、自分たちも当地に訪ねてみようとの動きが出てきている。来年度はバンングラデッシュの教育向上のための運動に、募金・スタディーツアーへの学生派遣などを通して全学的に関わっていく予定である。

最後に、皆様から献げられたクリスマス献金は十八万九千八百あり、国内外の各施設、学校に捧げました。感謝。
（宗教部長 金城重明）

教員紹介

一九九三年四月就任教員へのインタビュー



石田 稔一
（保育科教授）

石田先生は東京・神田の出身。東京大学法学部卒業。昨年東京高等裁判所長官を定年退職、憧れの沖縄へ居を移す。裁判官時代は、激務の間隙をぬって日本中をまわり国鉄を完乗した。「ゆたかはじめ」のペンネームをもち「汽車ポッポ判事さん」の異名を取る。

四十年間裁判実務一筋で、人の表情・しぐさ・フアッションに至る世の中の出来事すべてが研究の対象だった。

担当科目は、保育特講A、日本事情I。「学生と教師、大いに仲良くすべし。大学時代は人間教育の期間だと思ふ。保育の問題は親の問題、人間としての心がまえをしっかりと学び、親と堂々と保育（教育）について渡り合える人」



神山 繁實
（総合教育系教授）

神山先生は京都生まれ。東京神学大学大学院修士課程組織神学専攻その後ウェスタン神学大学・サンフランシスコ神学大学の各大学院修了。日本基督教団牧師。

主な研究テーマは、カルヴァンとカルヴィニズム。大学院時代にヘッセルリンク教授と出会ったことが専門分野の方向性を決定づけた。カルヴァンは教会史は勿論のこと宗教改革以後の歴史と社会に大きな影響を与えた人物で、現代では幅広い研究がなされている。キリスト教の本質とその歴史を考えるためにカルヴァン研究を深めたい。学生に対して望むことは、学業は選好みせず体当たりし、歴史感覚をしっかりとって真理を追求してほしい。教師との人格的な関わ

づくりをしたい」と抱負を語る。学生に望むことは？「今のままでいい、キラリ、キラ短ですよ。これでいきましょう。」

りを持ち、自分を大事にすると同時に学生同士が絶えず多くの学友たちに関心を払って欲しい。担当科目は、(1)キリスト教—

II(2)表現技法I・II(3)キリスト教倫理。公開講座では「聖書を読むためのギリシャ語講座」を担当した。

沖縄キリスト教短期大学紀要第22号発行

紀要二二二号が十二月に発行された。今回は、この程定年を迎える宗教部長金城重明教授の退職記念

号となっている。掲載論文等は次の通り。

著者	著書	内容
金城重明	金城重明教授退職記念号に寄せて	金城重明教授の退職にあたって 金城重明先生のプロフィール
金城重明	金城重明	沖縄キリスト教短期大学の歩みを顧みて 百年目の闘い —カナカ・マオリ主催回復運動との出会い—
神山繁實	神山繁實	カルヴァンの回心 (Conversio Subita) I —その神学形成の出発点として—
金城重明	金城重明	フィロコミックス (I) —漫画の感情論—
神山繁實	神山繁實	ディッケンズの小説「二都物語」の劇化
D. グレイ	D. グレイ	Oral Language Assessment in the EFL Classroom
L. E. アリソン	L. E. アリソン	地域振興策としての工業政策の実効性に関する評価 —沖縄県工業立地動向調査の時系列分析による—
友利 廣	友利 廣	島嶼産業のユニット構造の変遷に関する一考察 —砂糖製造業と農業・土石製造業を事例に—
渡久山 朝裕	渡久山 朝裕	演習科目「人間関係」の教授法に関する研究 —演劇発表を中心とした授業の教育効果について—
神山 博武	神山 博武	学校での福祉教育に関する基礎的研究 —沖縄県下の小・中・高校における福祉教育の実施状況調査を中心に—
神山 博武	神山 博武	学校での福祉教育に関する基礎的研究 (II) —児童生徒のボランティア活動普及事業の県指定の有無別検討—
徳間 朝健	徳間 朝健	新しい芸術は理解できるか、その鑑賞の視点・分析の視点
神山 美代子	神山 美代子	保育者養成における異文化理解の一試み —MSU幼児発達研究所における実習を中心に—
新川 右好	新川 右好	ヘミングウェイにおける「勇気」に関する覚え書 —「共生」と「復讐」の概念にも触れながら—
佐久本 朝一	佐久本 朝一	労働の楽と日米管理
西平 和枝	西平 和枝	母と子の書翰の健康 —沖縄とハワイの比較検討—
J. ハースコワツ	J. ハースコワツ	Memory and Pain in Beauty and Sadness
知念 一郎	知念 一郎	余暇観—その本質的意味の探究

金城重明教授の略歴と業績

キャンパス ニュース

◇第十三回学内英語弁論大会

十一月十二日に開かれた学内英語弁論大会に英語科二年生七名が出場した。入賞者は次の通り。

- 第一位 山城莉乃
- 第二位 神山若夏
- 第三位 仲座栄利子

◇第五回高校生英語弁論大会

本学主催（琉球放送共催）による第五回高校生英語弁論大会が十一月十一日チャペルで開催された。県内各高校から十九校が応募、書類及び録音テープによる審査を経て選出された十二人が出場、熱弁を奮った。審査の結果、一位に「FHAを通しての文化交流」と題し発表した那覇西高校三年稲福美香子さんが選ばれた。二位は普天間高校三年新垣潤君「ラップ・ミュージックから学んだこと」。三位に、前原高校三年安慶名薫さ

ん「オープンマインド」がそれぞれ入賞した。



◇学生の祭典キリ短祭

十一月二十七日、二十八日の両日、第二十九回キリ短祭が華やかに開催された。テーマは『いい大人になろう LOVE ME』。キリ短祭は学生自らの企画運営による最大行事であるため、多忙な時間をさいて皆が一体となって取り組んできた。毎年ユニークな発想のもとにいろいろな催し物が見られる。

今回は、本場のキムチやぎょう



キリ短祭 —— 世界の味「留学生の家」

ざ、酸辣湯、アルゼンチン料理を食べさせてくれた外国人留学生による模擬店「世界の味」、ハワイの留学先から教わってきたフラダンスの披露など国際色も取り入れられた。また、保育科の学生は、段ボールや廃品のプラスチック等を利用した台所やおふろ場など子ども達が本格的にまよふこと遊びができるような空間をつくるなど、日頃の学習の成果を披露した。キリ短祭実行委員会企画の石田譲一保育科教授の特別講演「キリ短ファッション考」も大盛況で、講師のユーモアたっぷりの話しぶりに場内は終始笑いの渦に包まれた。

国際文化交流の根幹は 人と人との交流

特別講演会

テーマ「国際文化交流」



国際交流基金
理事長 浅尾新一郎氏

国際交流基金の浅尾新一郎理事長を招き、十月二十八日「国際文化交流」のテーマで「特別講演会」を開催した。参加者は二五〇名で県の国際交流関係者も多数出席した。浅尾氏は講演の中で、国際文化交流は人と人との交流である、次のように語った。

冷戦の終結によりイデオロギーの対立が終り、二一世紀は文明が衝突する時代、文化の時代へと変わる。新しい世界秩序の中で文化交流を進める上で根幹となるのは、人と人との交流である。そのためには先ず日本人の心を国際化することが大事。特に若い人たちは異文化との相互交流を積極的に行って国際文化交流の担い手となってほしい。

本学後援会、評議員会、同窓会による

四年制大学資金造成チャリティー公演開催、収益金を贈呈

本学の四年制大学設立計画の支援と資金造成のためのチャリティー公演が、一月二十二日、後援会、評議員会、同窓会の方々の企画で開催された。企画・運営の中心は、琉球舞踊家で後援会員の新垣典子、音楽家で評議員の比嘉悦子、声楽家で同窓生の大井學の各氏。

「若南風」沖繩を舞い、歌う」



「若南風」公演の収益金を原喜美学長に贈呈する
本学後援会長・山城朝健氏、新垣典子氏、比嘉悦子氏。

と銘打たれた、琉球舞踊と沖繩の音楽に彩られた舞台は、会場（浦添市民会館大ホール）を埋めた七百余名の観客を大いに魅了した。収益金の贈呈式は三月十一日、短大理事長室で行われ、主催者を代表して後援会長山城朝健氏から原喜美学長へ純益百七十八万円が贈られた。

公演を終えて

琉球舞踊家 新垣典子

不況ムードの中で迎える一九九四年の幕開け、何か清々しく希望のもてる年にしたいとの私の思いが、この「若南風」公演により叶えられスタート出来ましたこと、感謝致します。

尊敬する原学長から四年制大学設立資金造成のお話があり、私の持っている芸でお役に立つことが出来たら……とお引き受けいたしました。

一月二十二日の公演日、沖繩では寒い日でしたが学校当局、後援会、同窓会の献身的なご協力で客席はいっぱい、出演者の熱情、それらが舞台のハーモニーとなって実を結んだステキな公演、観客の評価も頂きホッとしております。私も初めてピアノ演奏で「加那子」を踊らせていただき、門下生ともども貴重な舞台経験を重ねることができました。

人生の価値は、幾つ素晴らしい感動に出会えるかではないでしょうか。そしてそれを共有できる周りがあるといふ事、舞台を仕事と

する者にとってこんな嬉しいことはありません。巣立ちの春、旅立ちの春です。希望と可能性にチャレンジして、己の道をまっすぐ進みたいと思っております。

感動的な「若南風」公演

学長 原 喜美

私の一生のうちで、これ程さわやかなしかも心底からゆさぶられるような感動を受けたことはなかった。超一流の芸術家の方々による今回の公演を舞台裏で見守っていた私は、その高い芸術性に魅せられて、公演の終わった時は、全く別人のようになっていた。そして、四年制大学も、この芸術家の方々のように、超一流の大学にしなければという決意が湧き上がってきたのを感じた。

今回は初めから終わりまで一駒一駒関係者の方々のご厚意溢れるチームワークによるものであった。切符をたくさんお買上げ下さった沖繩のロータリークラブ会員のみなさま、同窓会、教会、一般の方々、惜しまず労をとって下さった担当者の方々に対し深い感謝を捧げます。

キャンパスでグランドゴルフ

と き 1994年4月9日(土)午後2時～

ところ キリ短キャンパス(中庭)

※参加費無料 豪華景品あり

※親睦を深め思い出を語り合う機会として企画しました。

1994年度沖縄キリスト教短期大学 同窓会定期総会のご案内

日時: 1994年4月9日(土)午後4時
会場: 沖縄キリスト教短期大学チャペル
議題: ■報告事項
活動状況報告
企画委員会 募金委員会 広報委員会
名簿作成委員会 奨学金(基金)委員会
■議 事
第一議案 決 算
第二議案 予 算

※同窓生の皆様是非ご出席下さい(参加費不要)。

同窓会ニュース



一九九三年度の活動報告と

新年度(一九九四年)の計画

同窓会長 金城 信一郎

一九九三年度は五月の定期総会と十月の臨時総会、六回の役員会、三度の評議員会、拡大役員会、委員長会、そして同窓会活動のために五つの委員会が組織され、各々に活発に活動されました。

一九九三年度は八つのビジョン(会報創刊号三頁参照)をもってスタートしましたが、少々ハッスルしすぎたようです。それは、他の多くのことに時間を要し、肝心の同窓会名簿の作成が七月十五日まで遅延せざるを得なかったからであります。多くの会員の協力を得、また名簿購入を希望され発行を待っておられる方には大変申し訳なく思っております。

発行するからには、完璧なものをと思い、約二〇〇余名の不明者を追跡調査し、転勤、退職、結婚等、異動の激しい実情を的確に把握して、完全に近いものを作りたいたいという思いから名簿作成委員会の結論として発行日を七月十五日に遅延ということになりました。心からお詫び申し上げます。

次年度(一九九四年)は

(一)すでに組織化され始動した各委員会の活発な活動を期待しております。

(二)沖縄キリスト教短期大学同窓会名簿を是非とも完成させ、会員相互の連絡と交わりを密にし、特に各期ごとの活発な交流をして

いただきました。願っております。
(三)歴代の同窓会長七名(八代)のメンバーによるビジョン委員会を組織し、今後の同窓会の発展についてよきアドバイスを頂きたいと願っております。
(キリスト教学科八期卒)

企画委員会

一九九三年度活動報告

委員長 新垣 洋子

企画委員会は十一月と十二月に大きなイベントを実施しました。同窓会員相互の親睦と交流を図りつつ短大援助を推進しようというねらいで、特に、十二月には声楽家の大井學氏(英語科七期生)の全面的な協力を得てリサイタルを開催、美しい歌声で聴衆を魅了し好評を博しましたことを特記致します。

実施したイベントは次の通り、純益は四年制大学設立資金の一部として短大へ寄付しましたのでご報告致します。(英語科十期卒)

■大井學テノール・リサイタル
十二月五日(日) 午後六時 会場 短大チャペル 入場者三百名
純益五十万五千元
■キリ短祭同窓会バザー
十一月二十七日～二十八日
キリ短祭に於て
純益十七万一千円

一九九四年度の計画は次の通りです。是非ご参加下さい。

■四月九日(土)

ホームカミングデー・キャンパスグランドゴルフ

■十一月二十六日～二十七日

キリ短祭同窓会バザー



パイプオルガン演奏—奨学金のために

広報委員会

委員長 知念 光弘

同窓会奨学金委員会(石川綾子委員長)は、奨学金基金造成への足がかりとして活動を開始した。持てるたまと貴重な時間を提供して行動を開始したのは委員長の石川綾子さん(六期卒)。石川さんは、那覇市西のロワジールホテル・オキナワのロビーでパイプオルガン演奏によるミニコンサート(三月二日から始めた。毎週水曜日と金曜日の週二回、昼の十二

時十五分から四十五分までの三十分間、讃美歌を中心に教会音楽を演奏している。

同委員会ではミニコンサートの開催計画が持ち上がったのは最近のこと。ドイツ留学の経験のある石川さんが、県内で唯一パイプオルガンが設置されているロワジールホテルを知り、さっそくホテル側にミニコンサートの開催を申し入れたところ、こころよく応じ、実現した。

ミニコンサートは、パイプオルガンが設置されているホテルのロビーで行われ、宿泊客や県内の一

般の人たちにも聞けるようになっていた。入場料は徴収せず、奨学金造成のための「献金」として一人三百円以上を献金箱に入れてもらうことになっている。

ミニコンサート初日は、三月二日、定刻どおりに行われ、石川さんが讃美歌を演奏した。

同コンサートは、当分の間、毎週水曜日と金曜日に行われることになっている。同窓生の皆さんもロワジールホテルまで足を延ばし、パイプオルガンの演奏に耳を傾けてみてはいかがだろうか。
(キリスト教学科四期卒)

パイプオルガン

ミニコンサートご案内

場所 ロワジールホテル・

オキナワ ロビー

日時 毎週水・金曜日

目的 十二時十五分～十二時四十五分

沖縄キリスト教短期大学学

生への奨学金基金造成

献金 「献金」として三百円以上

を献金箱へお願いします。

讃美歌を中心に教会音楽を演奏します。



COLLEGE LIFE

We, the People of OCJC



クリスマス礼拝（十二月十八日）

答 辞（要旨）

一九九四年三月十五日

卒業生代表 與崎 利香

春うららかな光を浴びて、木々の若葉が萌え出づる今日の良き日に卒業式を迎えます事を嬉しく思います。原学長の御訓示、来賓の方々の御祝辞を心に留め、卒業生を代表してお礼を申し上げます。

本短大へ入学して早二年の月日が流れました。入学後間もなく渡嘉敷島で開催された三日間のオリエンテーションキャンプでは学科にとらわれることなく溶けあい、先生方との交流も深める事ができました。学生生活についての全体討論会は意欲や熱意に溢れた素晴らしい内容でした。その時実り多い学生生活にしようと心に誓ったことが思い出されます。恒例のキリ短祭、礼拝、クリスマス礼拝、ハロウィンパーティー、ユニオンでの語らい、様々なサークル活動等青春を謳歌した楽しい思い出が走馬灯の様に駆けめぐります。

常に今を見つめ時代を先駆ける試みがなされている本学は、講義内容が大変充実しております。総合研究では地域社会に対し自

主性を培う為に奉仕する実践的な学習を経験しました。

異文化理解は真に国際社会に役立つ人間を養成する事を目的としています。米国、日本・沖縄の歴史、文化、社会について学んだ後、実際にアメリカの大学で英語研修や社会生活を経験するカリキュラムが組まれています。前期にミシガン州立大学、後期にハワイでの研修が行われました。私もミシガン州立大学の研修に参加させて頂き、他国の文化や言語を学習する事の必要性を感じました。又、研修先の人々の温かい心に触れ、心と心の交流こそが真の国際交流であると痛感しました。人間的にも学ぶ事の多いこの素晴らしい研修が末永く続き、沢山の方の参加を切望します。

現在、四年制大学設立を計画中ですが、私達卒業生一同、母校の益々のご発達を祈り微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思っています。社会は厳しく困難が多いことと思いますが、これまでの二年間で培った事を心の糧に、自信を持ち責任のある人間として生きてゆくことをお誓いして答辞と致します。